

【参考】第5期第9回静岡市行財政改革推進審議会 発言要旨

1 新行財政改革推進大綱策定について

【的場委員：質問】

- 3次総では、「地域経営」がキーワードになっている。総合計画に市民参画を取り入れる、市民との協働が言われている。
 - 「地域経営」は、新大綱の3つの柱（基本方針）の1つにもなっているため、審議会の中で概念、理念、考え方を、共通意識として持つ必要がある。市としての「地域経営」の考え方を説明願いたい。
- 企画課より「行政と市民の役割分担」について説明。

【木村委員：意見】

- 基本方針に「地域経営」があるが、少し違和感がある。中身を見ると、市民参画の要素が強い。
- 「地域経営」という言葉だけを見ると、市民参画というより、行政が行うことというイメージが強い。
- 行政と市民が協働するというイメージにつながる言葉にしてはどうか。

【曽根会長】

- 現大綱では、市民の参加、官民連携が前面に出てきている。
- 県が行った「新しい公共」というシンポジウムでも、NPOなどを含む市民の参加を行政に活用するということがこれからのあり方とされていた。

【足羽委員：質問】

- 大綱の全体像は把握できた。
 - 今回、「財政運営」の中の改革の方向の1つとして、アセットマネジメントについて、詳しい説明や資料があったが、「地域経営」や「行政運営」でも、同じように詳しい資料が提供されるのか。
- 事務局より、今後の進め方について説明。
- 新しい大綱を作っていく中で、「これが新大綱の売りである」というようなものも、資料として用意されるのか。
- これからの審議のなかで、「どういったことをしていくべきか」、「どうあるべきか」については議論していただきたい。

【木村委員：意見】

- 「地域経営」については、「市民参画経営」ではどうか。

【高橋（正）委員：意見】

- 全体像（試案）で、「現大綱のまとめと新大綱への考え方」を示しているが、これが新大綱の基本理念、今9つ上げている大きなテーマにどのように結びつくのか、またどのように3次総に結びついてくのかということがイメージできると良いと思う。

【高橋（節）委員：意見】

- 今は、財政状況が厳しいときで、明るいものばかり掲げられない。
- 一昔前の行政の役割は「利益の配分」であったが、今は「負担の配分」が大きな役割になってきている。そういう厳しさを広めていくべき。
- 制約条件が多くあるため、優先順位や「選択と集中」という考えを出していくべき。バラ色の3次総、そのための行革大綱と誤解されては困る。

【遠藤委員：意見】

- 今、格差社会が進展していて、個人の差が大きくなっている。市民参画したくても、できない人もたくさんいる。
- 個人の状況がどのように変わってきたのかということも加味していただきたい。
- 扶助費の増加への対処は行政としての視点だが、個人の目線でも考えていってほしい。

【青山委員：意見】

- 財源が限られているなかでは、いかに上手に財源を使っていくのかを考える必要がある。優先順位を付けることが大切となる。
- 場合によっては、事業を中止するなど、市民の利益の増加よりも、負担を減らすことを考えていくべき。

【竹内委員：意見】

- 「地域経営」については、言葉にだけとられない方が良い。
- 3次総と行革大綱はリンクさせるべきか、切り分けていくのか、3次総と同時に出ていくものなので、整理しなければいけない。

【土屋委員：意見】

- 3次総に向けて進んでいくことは良いことだと思うが、限られた財源をどう生かして、市民生活を豊かにしていくのか考えていかなければならない。
- 2次総から3次総へより良いものへとステップアップすることを考えがちだが、立ち戻ることも考えていかなければならない。
- 今は、短期間で状況が変わる。3～4年の間に何が起こるかわからない。策定したからといって、それにとらわれず、柔軟に対応していくべき。

【曾根会長：まとめ】

- これから基本方針ごとに進めていく。
- 時代の動きは激しいため、一度決めたから動かさないということではなく、柔軟性を持って変えていくことが重要。